

総合的な学習の時間学習指導案

指導者	呉市立波多見小学校 飯田 雄一郎
学 年	第5学年1組 男子21名 女子14名 計35名
单元名	ふるさと音戸の産業を未来へ受けつごう！-ふるさと音戸の産業を発信しよう-
探究課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（町づくり）

このような単元です

- 本校学区は瀬戸内海に面し、牡蠣養殖やちりめん漁などの水産業が盛んな地域である。音戸の牡蠣やちりめんは、全国規模で流通しており、地域を代表する特産品である。児童の通学路には、牡蠣の養殖を営む工場があり、水産業は児童にとって大変身近なものとなっている。
 - 音戸の牡蠣やちりめんは、瀬戸内海の豊かな海の環境によって育てられる。地域の大浦崎海岸に毎年全校で遠足に行くなど、児童は地域の海の環境にも親しんでいる。
 - 保護者の中には牡蠣養殖やちりめん漁を営む保護者がおり、また、呉市の環境保全に携わる団体が学区の大浦崎の環境保全に関わっている。
 - 本校の第5学年は、山海島体験活動で北広島町に民泊し、体験活動を行う。海が身近でない地域の北広島町の民泊の方と関わるため、学習したことを自分たちとは生活の基盤が違う相手を意識して伝えるための工夫をする必然性をもたせられる。
- 以上の実態から本単元は、児童が課題を設定し、多様な情報を集め、整理・分析して表現する学習活動に取り組むために、効果的な教材である。

このような児童です

- プレテストにおいて、課題の解決に必要な情報を理由をもって選ぶことができた児童は、24.1%であった。音戸中学校区では、中期の児童・生徒に育てたい思考力、判断力、表現力等として、「情報を目的意識や相手意識をもちながら整理・分析し、表現することができる」と設定しており、プレテストでも、情報を選んだ理由に目的意識や相手意識をもっていることが表現されているかを評価規準とした。評価規準に達しない回答としては、目的意識があることは見取ることができるものが37.9%、目的意識も相手意識もどちらも見取れないものが38%であった。このことから、必要な情報を、理由をもって選択する学習活動において、課題を十分に理解できておらず、何が課題の解決に必要な情報か判断することができなかったという原因が挙げられる。
- 本学級の児童は、個人で考える活動も、グループの学び合いも意欲的に取り組む児童が多い。特にグループ活動では、全員が少しでも発言することで、なるべく多様な考えを集めようとしており、本単元の探究の過程においても、グループ活動を効果的に取り入れながら学習を進めていく。

だからこのような授業をします

「思考力・判断力・表現力」を育てるための授業づくりに関わって

- 課題の設定の過程において、「音戸のかき、ちりめんはなぜ有名なのか、北広島の人たちに伝えよう」と目的と相手を意識させることで、「誰のための、何のための情報が必要なのか」と情報を選ぶ基準を明確にする。
- 情報収集の手段を考える際にも課題を意識させ、必要な情報を想起しながら計画を立てさせる。このことによって、情報を取捨選択する際に、児童が課題をより意識しながら考えられるようにする。
- 児童の情報を取捨選択する力を育成できるように、「課題の確認、情報の関連付け、焦点化する、考えをつくる」の4ステップで考える学習活動に取り組ませる。
- 児童が情報を取捨選択する際には、「情報選択シート」を一人一台端末上で活用させる。情報選択シートは、4ステップに合わせて、課題の解決に必要なだと予想した情報、事前に収集した情報、情報の関連付けや吟味に使用した思考ツール、選んだ情報とその理由を俯瞰できるようにし、必要な情報を選ぶまでの思考の流れを捉えやすくする。
- 情報の関連付けや焦点化には、ロイロノートの思考ツールを活用させる。その際、ツール上でただカードの移動をするだけでなく、なぜそのようにカードを移動させたかという理由をもって移動させる。そのため、関連付けのステップで作った情報のまとまりに名前を付けたり、焦点化した結果、必要だと判断した情報には判断の理由を書き込む等、ツールの活用の仕方を指導する。
- 児童が課題の解決に必要な情報を選ぶために、必要に応じて教師が個別に声掛けをして、課題や必要だと予想した情報を確認させる。
- 児童が必要だと判断した情報について、児童同士で話し合ったり、教師が個別に声掛けをしたりすることで、課題の解決により適切な情報を、理由を持って児童が選べるようにする。

「協働的・主体的に学ぶ」学習集団作りに関わって

- 課題の解決に必要な情報を選んでいるか、児童同士で話し合い、より適切なものを選ばせる。情報選択シートで思考の流れを視覚化しているため、それを見ながら話し合いをさせる。

1 単元の見本

水産業の振興に携わる人や組織やその仕事との関わりを深め、探究することを通して、地域の自然を生かした産業や組織の存在、それに携わる人々の知恵・工夫・努力について理解し、地域の水産業が今後も存続していくために、地域の一員として自分たちにできることを考え、実行することができる。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域の自然を生かした産業に携わる人々の知恵・工夫・努力とそれらの存続を願い、様々な組織が支え合い、協力し合って町づくりや地域活性化に取り組んでいることを理解している。 ② インターネット検索やインタビューなど、目的に応じて情報を集めている。 ③ 地域の自然を生かした産業や組織の存在、それに携わる人々の知恵・工夫・努力についての理解は、地域の産業を存続させていくために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① 地域の水産業の存続に関する学習課題を設定し、解決に必要な方法や手順を考え、見通しをもって学習の計画を立てている。 ② 地域の水産業に関する情報を目的に応じて収集する手段や対象を選択し、集めている。 ③ 地域の水産業に関する情報を関連付けたり、焦点化したりして、確かな理由や根拠をもち、解決に必要な情報を選択している。 ④ 地域の水産業の存続のために地域の一員として自分たちにできる取組を、相手や目的に応じて考え、表現方法を工夫している。	① 地域の水産業の存続に向けた取組案について、自身の意見のよさに気付いたり、他者の意見を受け入れたりしようとしている。 ② 地域の水産業の存続に向けた取組案について、他者の考えを生かしたり、協力したりしながら実現に向けて進んで取り組もうとしている。 ③ 地域の水産業の存続に向けた取組の実現を通して、地域の一員であることを自覚し、地域のために自分ができることを見つけようとしている。

3 単元の指導と評価の計画 (全 25 時間)

学習活動 (時数)	指導上の留意点	評価方法
課題の設定 (2) ○ 「音戸のかき、ちりめんがなぜ有名なのか、北広島の人に伝えよう」という課題を設定し、必要な情報が何か見通しをもつ。 ○ 音戸の水産物が有名な理由を調べる方法を考え、学習計画を立てる。	- 北広島の方から、「これまでの5年生の新聞で、音戸の水産物が全国的に有名なのは分かったから、なぜ有名なのか知りたい」という内容の手紙をいただき、目的意識・相手意識をもって課題を設定させる。 - 必要な情報の見通しをもつ際にも目的や相手を意識できるように、事前に北広島町観光協会の方と連携し、民泊の方々がどんな人たちなのか児童に知らせておく。	- 北広島の方に伝える情報の見通しをもっている。(ワークシート) - 必要な情報を調べる方法を考えている。(ワークシート)
情報の収集 (13) ○ 情報の記録・保存の仕方を知る。 ○ 情報を収集する。(インターネット、インタビュー、見学等)	- ゲストティーチャーの方と事前に打ち合わせをし、話していただくことや見せていただくものの方向性を決めておく。 - 文章のメモだけでなく、写真や動画の撮影など、多様な手段で記録させる。 - 手書きのメモはインタビュー等が終わった後に、ロイロノートで写真に撮るなどして、自分にとって分かりやすく蓄積させる。	- メモをとる、写真・動画を撮影するなど、目的に応じた方法で情報を記録している。(ワークシート、ロイロノート) - 友達と協力して、多様な情報を集めている。(ロイロノート、振

	写真や動画を撮影する際のルールやマナーについて事前に指導する。	り返り)
整理・分析（５） ○ 収集した情報を、ロイロノートのカードに書き出すことで、どんな情報が集まっているか確認させる。 ○ 収集した情報を関連付け、いくつかのまとまりにする。 ○ 情報を焦点化し、新聞に載せる情報を選ぶ。（本時）	- 整理しやすいように、ロイロノートのカード１つにつき、１つの情報を書かせる。 - 関連付けや焦点化はロイロノートの思考ツールを用いて行わせる。 - 情報を関連付けてできたまとまりには名前をつけさせる。このことで、どんな情報が集まっているのか理解が深まるとともに、新聞を作る際の見出しとしても活用できる。 - 焦点化する際には、課題の解決に必要なだと判断した理由を、ツール上に書き込ませることで、意図をもってカードの移動をさせる。	- 情報の関連付けを意図的に行なっている。（情報選択シート） - 情報を焦点化し、課題の解決に必要な情報を、理由をもって選んでいる。（情報選択シート）
まとめ・表現（５） ○ 取捨選択した情報を用いて、音戸の水産物がなぜ有名なのかを伝える新聞をつくる。 ○ 新聞を読み合い、より良いものにする。 ○ 山海島体験活動で、民泊の方に新聞を用いて発表する。（時間外） ○ ここまでの活動の振り返りをする。	- 国語科で学習した新聞の作り方を復習する。 - 目的や相手を確認し、意識して新聞づくりをさせる。	- 伝える相手を意識して、新聞を作っている。（新聞） - 音戸の水産業がなぜ有名なのか理解している。（新聞） - これまでの学習の成果を自覚している。（振り返り）

4 本時の目標 課題の解決のために必要な情報を、目的や相手を意識して選ぶことができる。

5 本時の展開（本時 16／25 時間）

学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点（○） （特に配慮を要する児童への支援●）	評価規準 （評価方法）
1 単元と本時の課題を確認する。			
音戸のかきやちりめんがなぜ有名なのかを北広島の方に伝えるために必要な情報を選ぶことができる。			
2 クラスで3つの情報に焦点化する目的と、前時に自分で選んだ情報と理由を確認する。	必要な情報の見通しで出された情報は全部で14個なので、その中から3つを選んで伝えることで、北広島の人にとって分かりやすい新聞にするためです。	○ 前時に、ピラミッドチャートの一番上に必要な情報を1つ選んで理由も書かせておく。	
3 必要な情報をクラスで3つ選ぶために話し合う。 ・班で ・全体で	- かきが大きくなるまでの手間を知って、とても驚いたので、かき養殖の方法について伝えたいです。 - ちりめん漁をするときは、一度にたくさんとると言っていました。漁の工夫も、有名な理由の一つだと思います。 - 音戸のかきやちりめん産業が歴史のあるものだとは知りませんでした。ぜひ伝えたいです。 - ちりめんがどこで生まれてどのように育つか初めて知ったので、それを伝えたいです。	○ 児童が個人で選んだ情報の中から、より適切な情報は何かという視点で議論させる。 ● 班の話し合いの際に発言しにくい児童については、個別に声掛けをし、その情報を選んだ理由を聞く。そしてそれを班の友達に広げ、話し合いをさせる。 ● 班での話し合いで友達から聞いた理由を思考ツールにメモさせる。	
○ 主発問 「音戸の」という内容や「北広島の人に伝える」という相手を意識して選んだ情報になっていますか。	「かき小町」というブランドかきを早く取り入れたのが音戸のかき業者さんです。「かき小町」のことを伝えれば、北広島の人にも音戸の水産業の凄さが伝わり、もっと興味をもってもらえると思います。 - 海の環境がいいから美味しくなるんだということが必要だと思います。北広島町には海がないし、牡蠣屋さんもちりめん屋さんもちりめん屋さんも両方とも、海の環境の良さの話をされていて、環境のおかげで美味しい	○ 小単元の課題を全体で確認する。 ○ 主発問後に班での話し合いの時間を設け、民泊の方に関する情報を確認しながら、選んだ情報を再び吟味させる。そのために、各班に民泊の方に関する情報が書かれた書類を配付する。 ○ 議論の対象になっている情報のうち、自分はどういう理由で	

4 本時の学習で決まった3つの情報のうち、自分が課題の解決に必要なだと思うものを1つ選び、理由を書く。 5 本時の振り返りをする。 6 次時の見通しをもつ。	ものが出来上がるんだと知ってほしいからです。 - 北広島のような音戸から遠い地域に運んでも音戸のちりめんは美味しいもので、なぜ美味しいものなのかという理由として、加工の仕方が必要な情報だと思います。 - 民泊の方には小さい子どもがいるところもあるから、音戸ちりめんがいろんな料理に使えることを新聞に書くといいと思います。 - 民泊でお世話になる方は自分のおばあちゃんよりも年上だ。健康に気をつけてほしいから、牡蠣やちりめんが栄養たっぷりだという情報をのせたいです。 課題の解決に必要な情報を、理由をもって選べました。これができたのは、友達の話をもとにして、北広島の人に伝えるという意識をもつことが大切だとわかったからです。	ともに個人でテキストカードを書く時間を最初にとる。 - 板書した児童の意見の中の「音戸の」という内容や「北広島の人」という相手を意識した表現に下線を引き、内容や相手を意識することは具体的にどういうことなのか児童に捉えさせる。 - 内容や相手を意識した記述になっている理由と、そうでない理由を比較させる。 - 児童の話し合いの様子によっては、再度目的や相手の確認を促す。 - 本時で決まった3つの情報のうち1つを選んで新聞を書くことを伝える。 - 情報選択シートの「考えをつくる」枠に選んだ情報のカードを動かし、理由を書くカードに理由を記述させる。	目的意識や相手意識をもって情報を選んでいる。(情報選択シートに記述した、情報を選んだ理由)
---	---	--	--